

報道関係者各位

2020年7月14日
ジャパン・ハウス ロンドン



世界的に著名な建築家／デザイナーによる
『ARCHITECTURE FOR DOGS 犬のための建築』展
ジャパン・ハウス ロンドンにて
2020年9月に開催

- ジャパン・ハウス ロンドンは、2020年9月19日（土）から国際的に高い評価を得ている『Architecture for Dogs 犬のための建築』展を開催します。
- 実際の展示空間およびオンラインにおいて作品を体験できる本展は、欧州では初めてジャパン・ハウスロンドンで開催されます。
- 坂茂氏・隈研吾氏・藤本壮介氏・伊東豊雄氏など世界の名だたる建築家が集結した本展では、人間と犬の関係をそれぞれの視点で捉え生み出された作品を無料で楽しむことができます。
- 本展には、犬が実際に楽しむことができる作品も含まれ、その作品は英国内他施設などでの巡回展示を検討中です。
- 本展で展示される作品の設計図は、オンライン上でダウンロード可能となります。誰もが建築家となり、設計図をもとに新しいアイデアを取り込んだ犬の建築を自作することができます。
- 本展は、2020年9月19日（土）から18週間開催される予定です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、国際的に高い評価を得ている『Architecture for Dogs 犬のための建築』展を、欧州で初めて2020年9月19日（土）から開催します。世界をリードする著名な建築家・デザイナーにより、ビーグル・ビションフリーゼ・トイプードルなど様々な犬種のためにデザインされた16作品を紹介する本展は、ケンジントン・ハイストリートでの展示会場で実際に鑑賞できるだけでなく、会場内の様子を3Dビューで体験できるオンライン展示、またライブツアーやトークイベントもオンラインで併催します。

英国のロックダウン中、忠実な4本足の友人が、癒しの存在として人間にとっていかに大切であるかに、これまで以上に気付かされました。『Architecture for Dogs 犬のための建築』展では、犬の尺度で考案しデザインされた建築作品をとおして、犬と人間のさらなる幸福の可能性を模索します。本展では、国際的に有名な設計事務所アトリエ・ワンがダックスフンドのために手掛けた「Architecture for Long-Bodied-Short-Legged Dog」など、小型犬が実際に楽しむことができる作品も複数点展開します。

『Architecture for Dogs 犬のための建築』展 展示作品の一部

- スヌーピーの新しい犬小屋 – オランダを代表する建築家集団 MVRDV による作品は、利口なビーグルの意欲をそそり、同時に遊び心をくすぐるおもちゃのような犬小屋。
- 一番可愛いのは誰？ - インダストリアル・デザイナーのコンスタンチン・グルチッチ氏が手がけたのは、自己認識力が高いとされるプードルのために、犬自身を映し出す鏡を使った作品。
- ワタアメの様な包みこむ立体 – ビジョンフリーゼの個性的なふわふわの毛からアイデアを得た妹島和世氏による作品は、犬が建築と一体となる隠れ家。

『犬のための建築』展は、デザイナー・原研哉氏（日本デザインセンター）のディレクションのもと、米投資会社 Imprint Venture Lab との共同企画により、原研哉氏自身も含め、坂茂氏・隈研吾氏・藤本壮介氏・伊東豊雄氏といった世界をリードする建築家やデザイナーによる作品を集結した展覧会です。

ジャパン・ハウス ロンドンでは、『犬のための建築』展の16番目の作品となる新作も会期中に出展します。非常に高い評価を得ている英国拠点の建築家により手がけられるこの初公開作品については近日発表予定です。

本展は、2012年に米フロリダ州マイアミの「Design Miami」にて最初の展覧会が開催されて以来、日本（東京／TOTO ギャラリー・間）、中国（上海／ヒマラヤ美術館）、ブラジル（ジャパン・ハウス サンパウロ）を巡回し、世界各地で好評を博しています。

ジャパン・ハウスのクリエイティブ・アドバイザーである原研哉氏は、「この度、ジャパン・ハウス ロンドンの招きで同展はロンドンに巡回することができました。「犬のため」とは言いつつも、このユニークなプロジェクトに参加いただいている建築家は、いずれも世界に名前の知られた一流の建築家たちです。どうか、斬新なる建築展としてご覧ください。」とコメントしています。

ジャパン・ハウス ロンドンの企画局長サイモン・ライトは、「本展では、輝かしい実績を誇る世界的に著名なクリエイターたちが、私たちの親友である犬のために、特別にデザインした作品を一同に紹介します。思慮深く設計され、挑発的でもありながら遊び心あふれる作品を是非見にきて楽しんでください。また、ウェブサイト上にて公開する図面で、自由に犬のための建築をデザインしてみてください。」とコメントします。

また、本展の共同企画者である Imprint Venture Lab 取締役代表のジュリア・ファング氏は、「犬のための建築は、建築家やデザイナーが、クリエイティブな課題解決者であり、

また物語を綴る語り手であり、さらには過去の概念に捉われない未来派であることに気付かせてくれます。初開催から8年目となる2020年に開催されることは、特別な意味があると思わずにはられません。この不安定な時代に、本展は、ジャパン・ハウス ロンドンに訪れる人々を笑顔にすることでしょう。」と語ります。

【ジャパン・ハウス ロンドン 展覧会サイト】

<https://www.japanhouselondon.uk/whats-on/2020/architecture-for-dogs>

【Architecture for Dogs 公式ホームページ】

<https://architecturefordogs.com/ja>

【本展公式写真について】

本展の公式写真は、[こちら](#)からダウンロードをお願いします。

画像ご使用の際は、以下のとおり画像クレジットをご記載ください。

- 使用写真が一枚の場合 Photo: Hiroshi Yoda
- 使用写真が複数の場合 Photos: Hiroshi Yoda

【入館事前予約について】

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、当面の間、事前予約制による入場制限を実施します。すべての来館者は事前予約が必要となります。予約は[こちら](#)から。

【開館時間の変更】（2020年7月現在）

月～金：午前11時～午後4時（入館は午後3時15分まで）

土：午前11時～午後6時（入館は午後5時15分まで）

日：午後12時～午後6時（入館は午後5時15分まで）

【ジャパン・ハウスについて】

日本の多様な魅力や政策・取組を発信することにより、日本への理解と共感の裾野を広げることが目的とした新たな拠点として、外務省により世界の3都市（サンパウロ・ロサンゼルス・ロンドン）に設置されました。日本に関する様々な情報がまとめて入手できるワンストップ・サービスを提供するとともに、レストラン・ショップ等を設置し、民間の活力・地域の魅力なども積極的に活用したオールジャパンでの発信の実現をめざします。さらに、専門家の知見を活用しつつ、現地のニーズにきめ細かく対応して現地の人々の共感を呼ぶよう工夫を行います。

【ジャパン・ハウス ロンドンについて】

日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的・商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、ギャラリー・ショップ・カフェ・レストラン・ライブラリーを備えた複合施設として、アート・デザイン・食・建築・テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

【新型コロナウイルス感染予防・拡散防止措置】

ジャパン・ハウス ロンドン は、英国におけるロックダウンの段階的解除後、2020年7月9日に先立って活動を再開した文化施設のひとつです。英国政府の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに従い、オンラインでの事前予約制導入をはじめ安全確保にかかる必要な措置を講じ、まずは地上階のみを再開しました。

ジャパン・ハウス ロンドン は、英国政府観光庁 (VisitBritain) が策定した業界標準「We're Good To Go」を満たしています。これは、ジャパン・ハウス ロンドンが、政府および公衆衛生局のガイダンスに従ったリスクアセスメントを実施し、必要なプロセスを実施していることを証明するものです。

ジャパン・ハウス ロンドン は、さまざまな感染拡大防止策を来館者の皆さまの安全のために講じます。詳細については[こちら](#)をご覧ください。

■ 感染拡大防止ガイドラインには以下のものが含まれています：

- スタッフは全員マスクを着用
- 出入口にアルコール系消毒液の設置
- 入口・出口を分離し一方通行に設定
- 2メートルの社会的距離確保

【本展についてのお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 課

担当：飛驒 香生里／ハイディ・伊佐（※両名を宛先に入れて下さい）

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk／Heidi.Isa@japanhouselondon.uk